

平成 21 年度第 4 回 サイバー・キャンパス・コンソーシアム
政治学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時:平成 22 年 1 月 25 日(月) 午後 2 時から午後 4 時まで
II. 場所:社団法人私立大学情報教育協会事務局 会議室
III. 出席者:吉岡委員、荻原委員、川島委員、井端事務局長、森下、恩田

配布資料

- (1) 名簿
- (2) 分野別教育「学士力考察」の報告・提言について
- (3) 分野別学士力の考察
- (4) 情報教育委員会及び分科会のイメージ
- (5) 分野別教育における情報教育の検討について
- (6) 委員検討案

IV. 検討事項

1. 事務局から、作成した学士力の考察を昨年 11 月 25 日に開催された私情協の臨時総会に提出し、また、私立大学・短期大学をはじめ文部科学省、日本学術会議に報告・提言を行った。学術審議会では、今年中に学士力を理系分野と文系分野から一ずつ作成する予定と伺った。その後、私情協の事業目的を説明し、情報教育については現在までにほとんど検討されていないため、私情協としては今後、情報教育について取り組む旨を説明した。この政治学委員会でも検討していただき、最終的には教員の教育力についても検討していくことを述べた。

本日の委員会では作成した学士力を実現するために、学生に身につけて欲しい IT 活用能力と技術力とそのための教育方法であることを述べ、具体的には、政治学の情報教育の到達目標、学生に身につけて欲しい情報活用力と技術力、知識、技能等と説明した。委員より事前にいただいた政治学の情報教育案をもとに意見を出し合いながら進めた。出てきた意見の一部を下記に記す。

- ・情報教育について、各分野ごとに固執するのは、一握りの人たちにとっては有効であるが、他の人にとっては当てはまらないことがある。
- ・一般的技能は大学全体で行ってもらい、学問固有は学部等で管理するのが望ましい。
- ・どこに情報があるのかを知っていることは重要。例えば、政治家のホームページからの情報収集。新聞、テレビ、雑誌等。
- ・新聞を読むのは、多様な考えを知るという意味では奥深いし、重要である。
- ・図書館における古典からの情報検索、文献検索を行い、集めた情報の整理が必要。
- ・テキストにおいても、どれが正しくて、どれが正しくないのか、また、正しい版であるのかを判断する能力が必要である。
- ・同じ文章でも文脈によって意味が異なるので、客観的に分析できる能力が必要。
- ・本を読む場合でも、誤訳が多くあるため、できれば原書を読むのが望ましい。引用する場合でも、オリ

ジナルから引用したほうが良い。

- ・何が正しくて、何が正しいのかの判断や情報リテラシーの重要性を教える必要がある。
- ・政治学と情報倫理に関する問題はかなり密着している。
- ・レポート、プレゼンテーション、ブログの作成等における注意点の指導。
- ・情報のあいまいさや立場による事象の違いにより、インターネットによる誤った情報拡大などの問題があるため、一般的な情報の講義は必要。

以上の意見と委員から事前に頂いた文案を基に、政治学の情報教育が作成された。

政治学の情報教育

到達目標 1

政治および政治学に関する課題、事象について、適切な情報の収集・整理ができる。

到達度

- ① 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)などの基本的な情報処理能力を身につけている。
- ② 政治および政治学関係の文献・資料の所在を知り、検索することができる。
- ③ 政治的な事象に関して、情報収集の適切な手段を知っている。
- ④ 種々のメディアの特性を理解している。
- ⑤ 情報倫理を身につけており、情報の信頼性・信憑性を識別できる。

教育方法・教育内容

①～⑤は、概論および実践紹介により理解させる。

到達度確認の測定手段

①～⑤は、教育支援システムを利用し、小レポート、アンケート等で確認する。

到達目標 2

情報通信技術を活用して、収集した情報を分析し、課題の実証、問題の発見に役立てることができる。

到達度

- ① 目的に沿って情報の比較、対照、処理ができる。
- ② 情報のおかれているコンテキストを理解し、情報に含まれる多様な意味内容を客観的に比較・分析ができる
- ③ 問題を発見し、課題を設定できる。

教育内容・教育方法

①～③は、双方向性を重視し、教員と学生および学生間のコミュニケーションを通じて、教育する。

到達度確認の測定手段

①～③は、講義形式の場合は、教育支援システム(掲示板等)を活用して、フィードバックを重視する。ゼミナール形式の場合は、対面コミュニケーション、グループ学習を活用して確認する。

到達目標 3

コミュニケーションに情報通信技術を駆使し、発表することができる。

到達度

- ① 発見した問題に対する自らの見解を適切に表現できる。
- ② コミュニケーションの内容・対象に応じて、適切なメディアを選択できる。
- ③ マルチメディアを活用して意見発表し、他者との意見交換を通じて共通理解をつくり出すことができる。

教育内容・教育方法

①～③は、ゼミ論文集の作成や学生間での研究発表、プレゼンテーションを活用する。

到達度確認の測定手段

①～③は、教員による評価のみならず、学生間の相互評価等により確認する。

2. 今後の活動について

今回の原案を再度検討し、修正があればメーリングリストにて議論して頂き、締め切りを2月末までとした。なお、本年度は今回が最後の委員会であり、次回委員会は来年度以降に開催予定である。

以上